

浦安の子どもたちのために様々な場面で活躍してくださっている方たちを紹介します。



学校司書



学校司書を代表して、堀江中学校、南小学校、舞浜小学校の図書室で働く学校司書の3名の方にインタビューしてみました。

学校司書の仕事を教えてください



舞浜小学校学校司書
中川まそみさん

中川 小学校には図書の時間があり、図書室で子どもたちに大型の絵本を使って読み聞かせをしたり、本選びの手伝いや読書の指導、それと本の貸し出しや返却手続きをしたりするなど多岐にわたります。本選びでは、なるべく新たな発見が得られるようなものを薦めています。

山田 中学校では授業支援という仕事大切です。各教科の授業内容に沿って関係する書籍を探し出し、教室でその中身を紹介し、生徒たちが授業への理解をより深められるようにするものです。

ふだんから心がけていること、大切にしていることは何ですか？

木寺 本選びを的確に支援することです。子どもによって本選びの要望は千差万別です。会話や雰囲気からその子が求めている本を推測し、「これはどうかな」と提示し、サポートしています。



南小学校学校司書
木寺泉さん

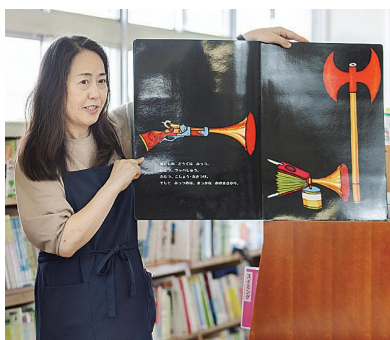
山田 中学生になると心理学や経済学など専門性の高い本を探す生徒も出てきます。それに対して、すぐに勉強をして可能な限り難しい要望にも対応できるように心がけています。



堀江中学校学校司書
山田絵利子さん

どんな時にやりがいを感じますか？

中川 読み聞かせをしたことで、その本に興味を持ってくれた時にやりがいとうれしさを感じます。本を介した子どもたちとの会話はいろいろな方向へと発展し、そこでは子どもたちから教わることもあるし、刺激も受けます。この仕事をしてよかったと思う瞬間ですね。



大型絵本による読み聞かせ

木寺 子どもたちに本が持つ優れた機能をうまく伝えられたときです。現代はインターネットで情報を簡単に収集できますが、例えば文学作品にはネットでは味わえない人の情感などが緻密に描き出されています。こうした本を読むことでこう話せば相手はどう受け止めるかといった感覚を養い、磨きをかけてほしいのです。

今後、取り組みたいことは何ですか？

中川 図書室を誰もが気軽に立ち寄れる開かれたところにしていきたいですね。本に接することで創造力を育み、いろいろな疑似体験をし、視野を広げてほしいです。本を読むことは自分の新たな一面を知ることにも通じます。



朝の読書の時間に読むお薦めの本を紹介するコーナー（堀江中学校）

山田 図書館には読書センターのほか情報学習センターとしての機能もあります。このため最近、SNSをめぐる問題が目立ってきていることもあり、ネットリテラシーとか情報リテラシーを体系的に身に付けられる支援ができればと思っています。

木寺 読み聞かせを通じ日本の昔話をもっと知ってほしいとの思いを強くしています。昔話には独特のリズム感があるし、昔話が伝わった地域の方言も多く使われています。昔話の面白みを知って豊かな心を育ててもらいたいと思います。



保護者が中心となって活動する図書館ボランティアが作成した、図書室の掲示物（南小学校）